

■ ご挨拶

|| 新型コロナウイルス感染から復帰しました

報道されました通り、私は議会開会中の3月8日に新型コロナウイルスの陽性であることが判明し、7日間の自宅療養を経て、3月15日に議会に復帰いたしました。

発熱や咳などの症状は療養期間を通じてありませんでしたが、3月に入り複数の議員の新型コロナ陽性が判明したことから全議員がPCR検査を受け、私の陽性も判明した次第です。幸い、後遺症なども無く、現在は至って健康に活動しております。

ご心配をおかけしたこと、何よりも委員会審査の日程に影響を与えてしまったことへの責任を痛感し、大変申し訳なく思っております。一方で、改めて人のつながり、ご近所の温かさを感じることができました。この経験を、必ずや今後の活動に生かしてまいりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。



■ 2月定例会の一般質問より（抜粋）

|| 千曲川流域治水と、桜井遊水地について

大井) 治水対策においては、即効性があり目に見える効果的な対策が、河川に堆積した土砂を取り去る**浚渫（しゅんせつ）**だが、大雨により絶え間なく土砂は堆積するため、計画的、臨機応變的に、**切れ目なく進めていかなければならない**。

答弁) 浚渫は、河川が越水した際の社会的影響を踏まえ、危険度の高い箇所から順次実施しており、令和3年度においても、土砂堆積が著しく、沿川に人家等が連たんしている佐久市中込地区や鍛冶屋地区等、8か所において約12万㎡の土砂撤去を実施している。令和4年度以降についても、引き続き中込地区等において、土砂撤去を実施するとともに、地域の皆様のご意見もお聞きしながら、臨機に対応していく。

大井) 佐久市桜井地籍にて計画されている遊水地の建設にあつては、これまで「用地は全て買収する方針であり、希望する耕作者には代替地を探す」と示されてきたが、代替地の確保は容易ではない。

そこで、桜井遊水地内の用地活用においては、**希望者には農地買収を進める一方で、優良農地や耕作者の生活を守るため地役権を設定し、農地を大区画化したうえで集約するようなエリアを設けられないか。**

また、用地買収ののち、農地として活用されない用地については、地元住民や地元自治体の意向を確認しつつ、グラウンドなど広く活用できる施設整備を検討するべきと考える。

答弁) (これまでの全ての用地を買収という方針だったが) 一部のエリアについては地役権を設定し、農業を継続することが可能か、関係者の意向確認を含め、県において検討を進めている。

農地として活用されていないエリアに関しては、県内にも、市の管理で陸上競技場として活用されている事例もあるので、用地の状況を踏まえながら、佐久市や関係者と協議を行っていく。

大井) **遊水地の建設に向けては、引き続き丁寧な説明が求められる**。住民の理解を得るべく、遊水地建設にあたり、中下流域への氾濫リスク軽減など、数値的根拠も含め、どのような説明にて理解を得ていく考えか。

答弁) 桜井遊水地は、令和元年東日本台風災害で越水等による浸水被害が発生した河川の改良復旧により、千曲川への流入増となる毎秒約260トンの水が、下流域に影響を及ぼさないよう、この増分を調節することを目的としている。

この遊水地は、佐久市内の河川が改良復旧により安全になると同時に、下流域の安全も確保していくことにより、流域全体で安全性を高めていく「流域治水」の理念に基づいたものである。

今後も、遊水地の建設目的をはじめ、説明会でいただいたご意見、疑問等に対して丁寧に説明を行い、地域の方々のご理解を得ながら、事業の進捗を図っていく。



長野駅前でのウクライナ人道支援の呼びかけ

■ 他の質問項目

- ・第6波における保健所の体制強化、職員へのケアについて
- ・新型コロナにおける（不安を煽ることの無い）知事からの情報発信について
- ・トレーニング（テストステロン）と健康について
- ・消防団員確保における課題と、防災士の活用について

《ミニ県政報告会・意見交換会を開催します》

5月1日(日) ① 13時～ ② 16時～ (1時間程度を予定)

会場: 大井岳夫事務所 佐久市中込2969-1 (人数に制限を設けさせていただきます)

事前に、事務所 77-7639 (平日10～16時) までご連絡いただくと幸いです。

また、3人以上お集まりの際は、こちらから伺ってお話させていただきます!

特集 独占インタビュー

松山三四六、信州を語る

まつやまさんしろう
松山三四六です。宜しくお願ひ致します。



松山三四六 (まつやまさんしろう) プロフィール

1970年(昭和45)、東京生まれ。タレント、ラジオパーソナリティー、歌手、柔道家。長野大学社会福祉学部客員教授。小学校時代より柔道で圧倒的な強さを誇った。少年相撲では小学校4年から6年まで全国3連覇。第66代横綱の若乃花とも当時対戦したが、一度も負けなかった。明治大学柔道部ではオリンピック候補として期待されていたが、度重なるケガにより柔道競技の道を断念。失意の中、22歳の時にテレビ番組「史上最強ものまねバトル大賞」に出演し優勝を果たす。その後、吉本興業に入社。松山千春のものまねがうまいことで本人に気に入られ、「松山」の姓を許される。2001年から長野県とのつながりが一気に深まり、移住して現在に至る。

「信州愛」の原点は

【大井県議】
三四六さんは昨年、「信州ディープツアー」(写真参照)という本を出版されました。



県歌「信濃の国」をもとに信州全域を歩かれ、名所・歴史・グルメを紹介した本著を通じて、信州への深い愛を感じます。

【松山三四六】

長男が妻のお腹にいる時に初めて信州で仕事をさせていただき、その長男は成人を迎えました。そして次男も大学生になりました。

長い間東京と信州を往復して仕事をしていましたが、令和元年台風災害で、長野市穂保地区に連日ボランティアに入る中「自分や子どもたちを育ててくれた信州に恩返ししたい」という想いが募り、信州に移住しました。
子どもたちも背中を押してくれましたよ！

魅力あふれる佐久地域

【大井県議】

著書では佐久地域の魅力もたくさん紹介されています。佐久地域への想いを聞かせてください。

【松山三四六】

平尾温泉「みはらしの湯」や、高峰高原からの佐久平の眺望は素晴らしいですね。

先日、大井県議と五郎兵衛記念館に寄りましたが、関所破りの桜と、バックに映える浅間山は美しかったです。さすが、信濃の国で歌われている「4つの平」の1つ。肥沃の地であり、景観も素晴らしい。

中山道の旧宿場町は昔のたたずまいを残しているし、健康長寿の里を代表する「びんころ地蔵」もあって、様々な魅力が混在した奥深い地域で、大好きな地域です。

【大井県議】

食文化も豊かですね。

【松山三四六】

安養寺らうめんや五郎兵衛米、駒月みそかつ丼、佐久鯉、軽井沢の霧下野菜、御代田のそばやレーマンの麦子ヨコ、立科のりんごや夢科牛など、挙げたらキリがないくらい。米どころだし、新鮮な高原野菜、果樹栽培も盛ん。

これだけ豊かな食文化を有している地域は他に思い浮かばないなあ。だからこそ、守っていききたい、という想いを強くしています！

【大井県議】

私は三四六さんと同じく、信州で育っています。信州の豊かな自然、人の素晴らしいさに惹かれ、15年前に生ま

れ故郷である佐久に戻りました。

景観や自然環境は当たり前にあるものではなくて、我々の世代が先人から引き継ぎ、守り、次世代に渡していくという責任を感じています。

【松山三四六】



松山三四六

佐久地域は交通の便や暮らしやすさ、教育環境などが充



聞き手 大井岳夫県議

実している、県内で移住地としての人気はトップクラス。

一方で、佐久地域内でも中山間地を中心にコミュニティの維持に苦労している地域もある。移住者を増やす後押しと、都市部との交流をもっと増やして、地域を守り、元気にしていきたい。

【大井県議】

地域を守るために

は、若者を中心とした人材を呼び込まなくてはなりません。

【松山三四六】
佐久地域は製造業を中心に産業のバランスが取れている印象がありますが、農業も含めて、人材確保に苦労しているという話をよく聞きます。DXを推進し、付加価値を高める後押しをしていきたいです。

【大井県議】

三四六さんは柔道、私は相撲。同窓体育会の先輩として、スポーツの振興、武道の精神を伝播させていただきたい、もの凄く期待しています！

【松山三四六】

僕は柔道に育ててもらった人間です。武道の精神は日本の宝。武道やスポーツを通じて、次世代を担う若者を育てていきたいとの想いはますます強くなっています。それには何としても、良い結果を出さなければなりません。気力・体力には自信がありますし、僕の気持ちはすでに「戦国武将」モードになっています！

いざ出陣!



著書「信州ディープツアー」より